

教育目標 経営目標	【学校教育目標】 自ら学び 自ら考え 協働できる 心豊かな子供の育成 【学校経営目標】 「町を育てる学力」を基盤とした「郷土を愛する子供」の育成	めざす 児童像	○自ら考え行動することができる（主体性） ○困難なことにも諦めないで取り組むことができる（粘り強さ） ○自分の思いや考えを伝えることができる（表現力） ○相手の気持ちを大切に、共同して物事を行うことができる（思いやり・協同性） ○地域を知り、自分を取り巻く人や環境に感謝することができる（郷土愛・感謝）
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------	------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価計画					自己評価					学校関係者評価			
中期経営 目標	短期経営目標	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目・指標	目標 値	時 期	達 成 値	評 価	達成状況	改善方策	評価			コメント
										イ	ロ	ハ	
確かな学力	「基礎・基本」の確実な習得を担保しながら、協働的な深い学びを実現する。	「主体性を発揮する児童の育成」を意識した授業づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導を充実させる。 (低学年を中心とした学力補充や全校で取り組むのびのびタイムにより、基礎基本を定着させるとともに発展問題などにも取り組ませる)</li> </ul>	国語科・算数科のテストにおいて、思考・判断・表現の観点から80点以上の児童の割合を確保する。	80%以上	中間9月 最終2月	80.1% B	国語73.4%算数54.7%の達成状況であった。教科間での差が大きい。個人差も大きい。目標値を達成できていない児童に着目して取り組みを進めていく。	個に応じた指導を充実させる。 低学年：学力補充の指導体制を整える。指導を担任、丸付けをその他の者でできるようにしていく。 高学年：家庭学習においてプリントなどを活用して学力補充を進めていく。空き時間で基礎基本の徹底をする。				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科、総合的な学習の時間の充実を図る。 (PBL「プロジェクト型学習」の考え方を生かした単元開発・探究的な学習の流れカードの活用・ふりかえりにおいて、次時に向けた見通しや思いを書かせる。)</li> </ul>	児童アンケートの「主体的に取り組む」項目において、肯定的評価をする児童の割合	80%以上	中間9月 最終2月	103.5% A	児童アンケートの育てたい資質・能力の「振り返り力」の項目において、肯定的評価をする児童の割合は82.8%だった。目標値を達成したことで、次回は、育てたい資質・能力の3つの項目「課題発見力・課題解決力・振り返り力」において、肯定的評価をする児童の割合80%を目指す。	今後さらに、各教科等との関連を図りながら教材研究を深め、進めるとともに、年度末の各学年のゴールへの見直しをもって、取り組んでいく。また、振り返りに対して視点を与える。				
豊かな心	思いやりをもち、前向きに判断し行動する児童の育成を図る。	「自分たちの生活をよりよくするためにどうすれば良いかを考え実践できる児童の育成」に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第3週をあいさつ週間とし、個人の目標を書くチャレンジカードに挨拶に関する目標を書かせ意識付けをする。</li> <li>児童会を中心に挨拶に関するイベントを計画実施する。</li> <li>学校や学級で、頑張っている姿を具体的に評価し価値付けを行う。</li> </ul>	職員の見取りアンケート(課題がある項目)において、肯定的評価をする職員の割合	70%以上	中間9月 最終2月	103% A	児童アンケートのあいさつ・言葉遣いの項目において、職員の見取りアンケートの肯定的評価の割合が72.7%だった。目標値を達成していたが、朝児童を出迎えている先生や学校に来られた方に対して、あいさつをされたから返したり、そのまま挨拶を返さなかったりする児童もいた。とくに朝の登校時の挨拶は元気のない児童が多い。挨拶についての見取りを80%にし、今後も継続して自分から進んで挨拶をするように声掛け等を行う。	朝の挨拶の状況を担当教員が見取り、その結果を集会等で伝え、各学年で取り組みを考えさせ実施させる。実施後の結果を再度担当教員が見取り、その成果を再度確認させる。				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第3・4週目のチャレンジカードに親切・協力に関する目標を書かせ意識付けをする。</li> <li>教師や児童同士の評価を取り入れる。</li> </ul>	職員の見取りアンケート(課題がある項目)において、肯定的評価をする職員の割合	80%以上	最終2月							
			<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第3・4週目のチャレンジカードに親切・協力に関する目標を書かせ意識付けをする。</li> <li>教師や児童同士の評価を取り入れる。</li> </ul>	職員の見取りアンケート(課題がある項目)において、肯定的評価をする職員の割合	70%以上	中間9月 最終2月					個人が書くチャレンジカードを活用して、目標を設定し、自己評価や相互評価を充実させる。		
健やかな体	心身の健康・体力向上に自らチャレンジする児童の育成を図る。	「体を動かすことが楽しいと思える児童の育成」を意識した体力づくりの改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力朝会の充実をはかる。</li> <li>体力朝会や体育の授業の準備体操にACP(アクティブチャイルドプログラム)を取り入れる</li> <li>全校レクを実施する。</li> </ul>	新体力テスト生活アンケートにおいて、1日の運動時間が30分以上の児童の割合	80%以上	中間9月 最終2月	89% B	新体力テストの「運動やスポーツをするときは1日にどのくらいの時間しますか(学校の体育の授業をのぞきます。)」項目において、30分以上運動をする児童の割合は、71.2%だった。目標値を達成していないので、取り組みを継続する。	外遊びの充実を一層図っていく。 月に2回全校外遊びの日を設定する。(月2回→週1回→週2回のように頻度を増やす。) 運動場にドッジボールやかたつむりジャンケンなどのラインを引いたり、道具の充実をして児童が運動できる環境を作る。				
		生活リズムの習慣化等、基本的な生活習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任と連携した継続的・計画的な保健教育・保健学習を実施する。</li> </ul>	生活リズムづくりカードにおいて、肯定的な評価をした児童の割合	80%以上	中間9月 最終2月	102% A	生活リズムづくり週間の「早寝・早起き・学習時刻」を守れた項目において、自分で決めた目標の時刻で生活することができた児童の割合は81.6%だった。目標値を達成したため、次回は肯定的な評価をした児童の割合を90%以上を目指す。	個に応じた指導を充実させる。 生活リズムづくりカードに意欲的に取り組むことができていない児童に対して、個別の保健指導を実施したり、保護者連携など丁寧な指導を行う。				
信頼される学校	教職員が健康で生き生きと働き、地域や保護者から信頼される学校を実現する。	業務改善に取組み児童と向き合う時間の確保と指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって仕事をする。</li> <li>SSSを積極的に活用する。</li> </ul>	学校における働き方アンケート「児童と向き合う時間が確保されている」の項目において肯定的評価をする教諭の割合	80%以上	中間9月 最終2月	125% A	肯定的評価をした教員は100%だった。一方で、どちらかと言えばあてはまると回答した教員が25%、あてはまると回答した教員が67%、よくあてはまると回答した教員は8%だった。	主任主事を中心に日ごろから業務改善に係る取組を提案していく。また、管理職は提案された案を積極的に採用できるようにし、よくあてはまると回答する教員の割合を増やす。				
		広く学校の取組みを知ってもらおう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより・学級だよりを充実させる。</li> <li>研究の経過をHPで発信する。</li> </ul>	学級だよりの発行回数	月2回以上	中間9月 最終2月	75% C	月2回の発行ができた学級は6/8だった。一方で月4回のペースで発行できているクラスもある。	学級だより発行の意義を再確認するとともに、管理職が進捗状況を確認し、細目に確認を行っていく。				

【自己評価 評価基準】  
 A: 90%≦ (目標達成)  
 B: 80%≦ (ほぼ達成) < 90%  
 C: 60%≦ (もう少し) < 80%  
 D: (できていない) < 60%

【学校関係者評価】  
 イ: 自己評価は適正である  
 ロ: 自己評価は適正でない  
 ハ: 分からない